



STORIA

子どもたちの未来をつむぐ



■沿革

- ・2016年：「子どもの貧困」課題の解決を目指し、2016年年4月11日に設立。
子どもの居場所を町内会と協働で仙台市内にて開設。
- ・2017年：「子どもの貧困」課題の認知拡大のため、仙台市・東京で勉強会を開催。
- ・2018年：「経済的困難を抱えた子どもの成果指標」を策定、事業の効果測定を実施。
- ・2019年： 成功事業を他団体へノウハウの共有などを行っている。

■内容

ビジョン：貧困の連鎖を断ち切り、「支えられる人」が「支える人」になり愛情が循環する社会をつくる。

ミッション：経済的困難を抱えた子どもたちが、困難を乗り越え生き抜く力を育む環境を提供する。

支援の方針：子ども達が、これからの時代を豊かに生きれるための力を育むことを大切にしている。

活動概要：

- ①地域との連携：町内会と協働で市営住宅内にて、子どもの居場所を開設・運営。
- ②早期から対応：相対的貧困家庭の小学生を対象。
- ③複合的アプローチ：食育・学習・体験学習の実施と家庭への包括的な支援。
- ④多様な協働連携：地域・企業・行政・大学などと連携し、社会課題を一緒に解決する。

助成事業の実施経緯

事業の背景



TOTALLY
COOL
PIX.COM

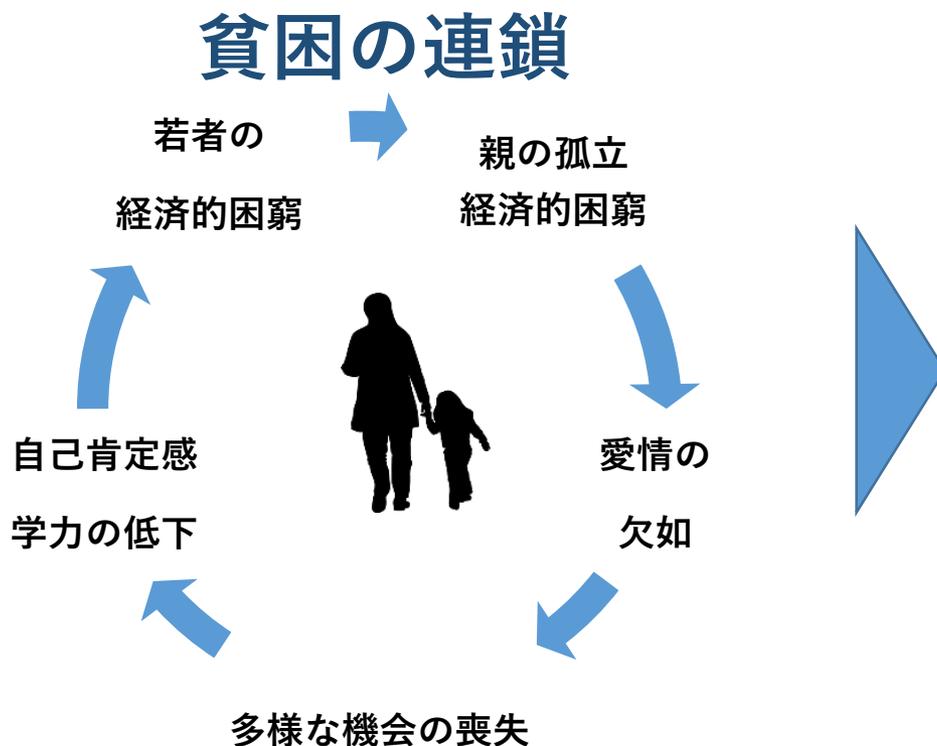




東日本大震災で 浮き彫りとなった「子どもの貧困」



貧困の連鎖により**生きる力が醸成されない負のループ**

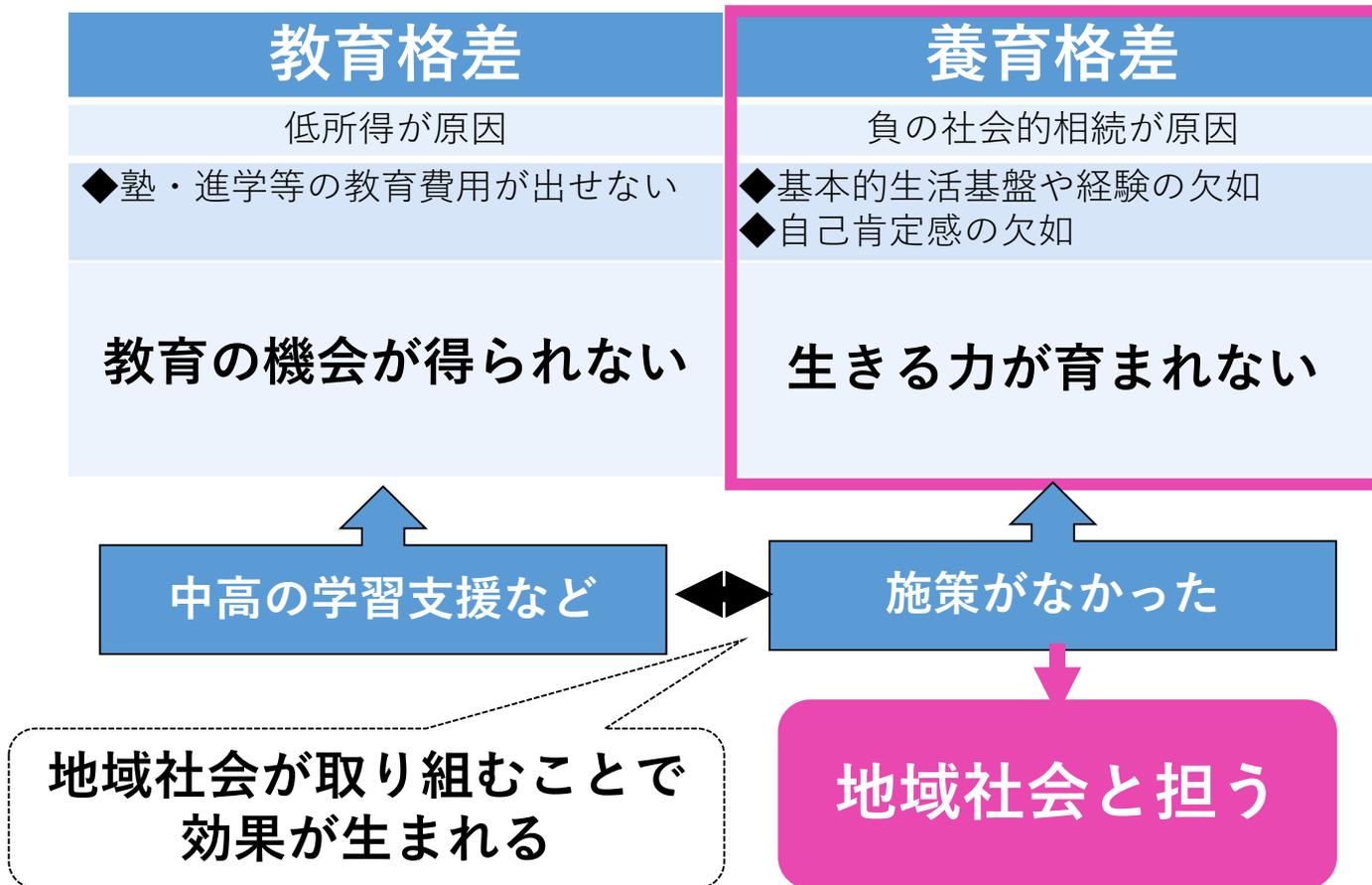


負の社会的相続

- 1) 自己肯定感
- 2) 思考・伝達・協働する力
- 3) 学習意欲
- 4) 価値観
- 5) 職業観

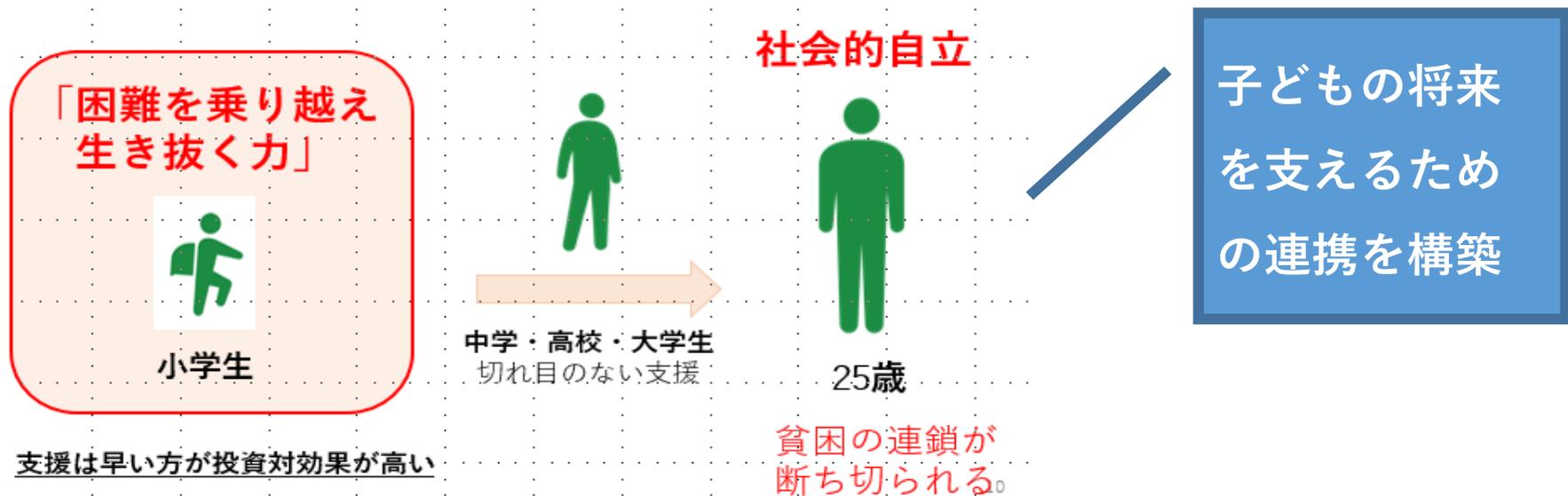
連鎖を断つには何が必要か

根本的な課題である養育格差への事業を開始



生きる力を育むためには

- 1) 負の社会的相続を変えるためには**低年齢期**から着手
- 2) 人間の土台となる**自己肯定感**や**非認知能力**を育む
- 3) **地域と一緒に子どものみならず、家族も包括的に見守る**



助成事業の実施内容

生きる力を育む居場所

市営住宅に子どもの居場所開設

2016年7月 仙台市宮城野区 市営住宅内



学習 - 探求学習 -

コンセプト) 遊びを通して学ぶことが楽しいと思える学習！



宿題をしている様子



宿題をしている様子



子ども達同士で教え合う様子



■ 目的：基礎学力と探求心の向上

- ・宿題を中心に基礎学力の定着を図る。
 - ・探求学習プログラムを実施し、学校の勉強にはないアプローチで学ぶことの楽しさを感じてもらい、興味関心を育む。
- (社会起業家のなろう！投資家になろう！プログラマーになろう！な)

食育 -こどもキッチン-

コンセプト) 作る・食べる・食べてもらう楽しみを味わう！



■ 目的：愛情のこもった食事と会話で子供の精神的安定を図る。簡単な調理スキルを身に付ける

地域や学生ボランティアと、当日の食材にまつわるエピソードや学校での出来事を話すなど、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむことを大切にしている。

季節に応じて、子ども達が自分でできる簡単な調理を行い、料理の楽しさも体験する。

体験 -非認知能力- 子どもカフェOPEN!

コンセプト)
子ども達の「やりたい！」を
叶える・実現させる!

<目的>

- ・創造する力
- ・やり抜く力
- ・共感する力
- ・協働する力
- ・失敗を学びに変える力



効果測定

測定結果

■実施結果

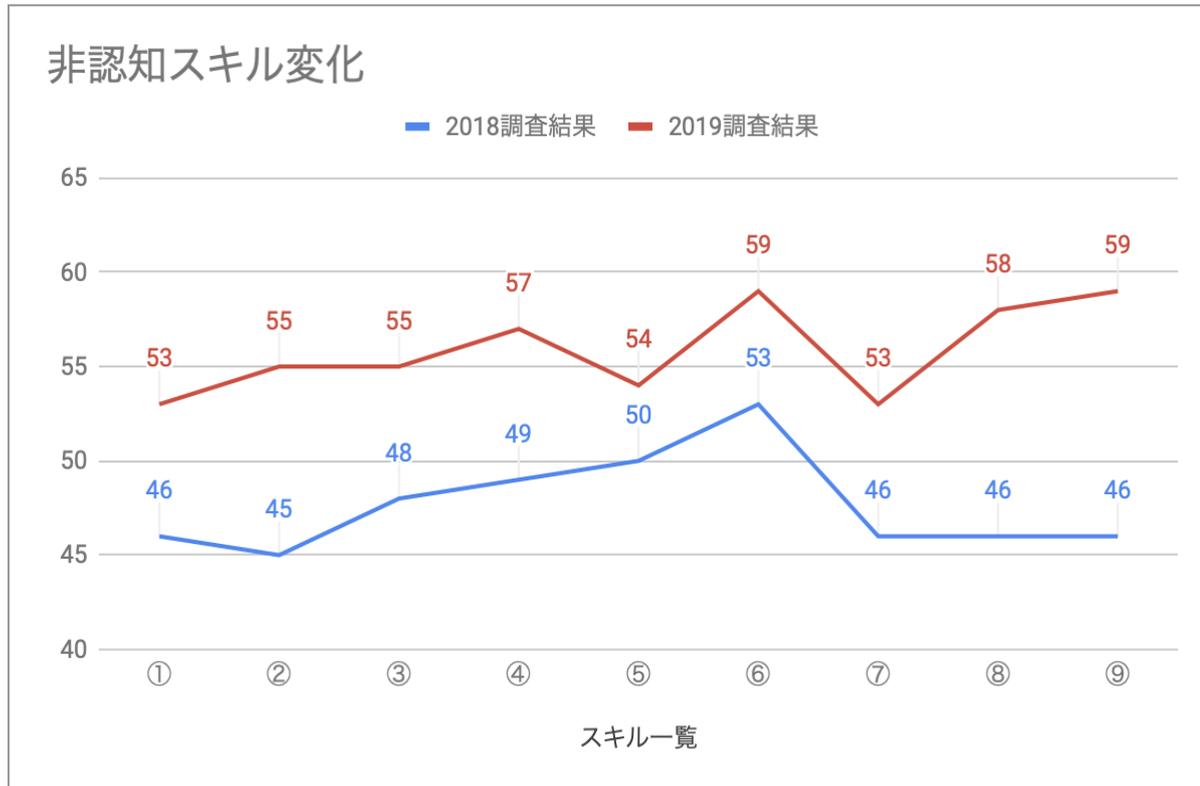
全項目が向上

「①生活力の向上」は、全家庭で「向上した」「やや向上した」と回答。「③基礎学力の向上」も60%以上が「向上した」「やや向上した」と回答、「④自己肯定感」も目標値を達成している。週2回、ほとんど休みなく活動場所に来ることで、活動拠点で家事を手伝うことや簡単な調理、学習の習慣、などが自然に身についたことが伺える。また、体験学習による多様な経験により自己肯定感が上がってきているといえる。

目標	目標数値	結果数値
① 生活力の向上 (自主的に家事を手伝う姿勢と基本的な家事スキル)	50%	100%
②子どもの出席率	70%	93%
③基礎学力の向上 ※学校の通知表の成績	50%	67%
⑤自己肯定観の向上	60%	60%

非認知能力の測定

全項目の目標において、子ども全員に変化が見られた



非認知能力項目

▼自分をみる力

- ①思ったこと、いつもやっていたことを立ち止まれる
- ②状況に合わせて行動する

▼相手をみる力

- ③相手が何故そんな気持ちであるか理解することができる
- ④思っていることとは違う行動をしてしまうことと理解している
- ⑤相手が何故そんな行動をしたか考えることができる

▼人と関わる力

- ⑥体験したことを振り返ることができる
- ⑦人と対立しても乗り越えようとする
- ⑧言葉を使って気持ちを表現できる
- ⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする

評価

1	見られない
2	どちらかという見られない
3	たまに見られる
4	ときどき見られる
5	よく見られる

生まれた効果

1、子ども

- ・子ども同士、大人に対しても「信頼する心」「助けよう」という心が育まれている。
- ・主体的な言動が増え、失敗を恐れなくなり、自分に対する自信（自己肯定感）が醸成されている。

2、保護者

- ・スタッフや地域との関係性が構築され、困った時に頼れる人ができた。
- ・気持ちの余裕が生まれた。

2、スタッフ・ボランティア

- ・大人の自己肯定感も醸成されている。
- ・大人が子どもから教わることも多く、共に成長している。

3、地域

- ・子どもの貧困やシングルマザー、困窮世帯の置かれている背景を理解し、地域でサポートしようという一体感、地域力が増している。

ジュニア・ボランティアの成長

居場所を卒業した中学生が、下級生へ愛情を渡す立場へと変化。



- ・小学生へのメンタリング
- ・居場所の運営
- ・体験学習の企画や運営サポート
- ・地域の行事サポートなど

成果に繋がったポイント

■事業を円滑にするために

①子どもの貧困課題の正しい理解の浸透

- ・地域の方や一般の方、ボランティア、プロボノ向けに開催した勉強会や研修により、困難を抱えた家庭や子どもの目線や気持ちを理解してもらうことで自分事となり、協力や支援が増えた。

②事業の効果測定と振り返り、言語化への徹底的なこだわり

- ・事業・毎回の活動・自分達や子ども達の振り返りを行い、記録を取り続け、その次へ生かすためのアクションを行った。

■子どもの成果

①STORIAとしての在り方の徹底的な追求

- ・スタッフやボランティアとの対話により、STORIAの社会的意義や価値、私たちのスタンスを何度も話し合った。企業文化が生まれ始めた。
- ・徹底的に子どもの自主性を尊重し、子ども達の今後を見据えた活動に終始した。

見えてきたこと

子どもの貧困を解決する先にある
STORIAの新たなビジョン

愛情の循環を
全ての子ども達へ





STORIA

子どもたちの未来をつむぐ



毎回の活動時に記録をつけ、その後分析を行う

【非認知能力 育てたい項目】

▼自分をみる力

- ① 思ったこと、いつもやっていたことを立ち止まれる
- ② 状況に合わせて行動する

▼相手をみる力

- ③ 相手の立場や考え方を踏まえて気持ちを理解することができる
- ④ 思っていることとは違う行動をしてしまうことと理解している
- ⑤ 相手が何故そんな行動をしたか考えることができる

▼人と関わる力

- ⑥ 体験したことを振り返ることができる
- ⑦ 人と対立しても乗り越えようとする
- ⑧ 言葉を使って気持ちを表現できる
- ⑨ 相手を助けたり、相手のために何かしようとする

	日付	どんな時、どんなことをした？	どんなところが良かった？	みられたとされる非認知能力	なぜこのような行動ができたか
例	2018年8月16日	遊んでいるときでもお手伝いをしてくれた	人のことを想って行動してくれたこと	①、②、⑨	

振り返り結果を保護者と子どもへ



毎回、活動の振り返りの際に記載した子どもの良かったところをメッセージにし、保護者と子どもたちに毎月お手紙として渡している。

家族の関係性が深まる効果や、保護者と子どもの自己肯定感が高まるなどの効果が見られている。